

# 神奈川県最低賃金審議会

## 令和6年度第1回神奈川県最低賃金専門部会議事要旨

開催日時	令和6年7月31日（水） 15:00~16:40		
出席状況	公益を代表する委員	出席3人	定数3人
	労働者を代表する委員	出席3人	定数3人
	使用者を代表する委員	出席3人	定数3人
主要議題	1 部会長・部会長代理の選出について 2 神奈川県最低賃金の改正決定について 3 その他		
議事要旨	<p>1 部会長に赤羽淳委員、部会長代理に石崎由希子委員が選出された。</p> <p>2 統計資料について事務局から説明があり、それに対する質疑応答が行われた。</p> <p>3 神奈川県最低賃金について、公益委員が労使双方から意見聴取（個別折衝）を行った。</p> <p>(1) 労働者側の主張 地域間格差については、最低賃金引上げの抑制でなく、適正な価格転嫁支援と人口減少問題を踏まえ、労働力確保に必要な水準を考慮すべきであり、東京都と隣接する神奈川県のポテンシャルを維持するためにも東京都との差を広げてはならない。 急激な物価高から神奈川で多い最賃近傍で働く人の生活は苦しく物価水準を上回る最低賃金の水準改定が求められる。 目安の50円という金額は、春闘において33年ぶりとなる5%台を反映したものであり、労働者の生計費に重点を置いた点は評価したい。</p> <p>(2) 使用者側の主張 中小零細企業においては、価格転嫁が進まず最低賃金上がることへのコストへのインパクトは大変なものがある。 人材不足は深刻化しており、人材確保するにもいわゆる年収の壁により支障が生じている。賃金引上げそのものまでも否定するものではないが、納得感のある結果を提示する必要がある。 議論をしっかりとって可能な範囲でお互いに歩み寄りを図りたいと思っている。</p> <p>4 現時点では労使の意見の隔たりがあり、引き続き専門部会で審議を行っていくこととなった。</p>		